

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
191	2006/5/29	60191	東レ株式会社	インターフェロンベータ	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物	無	無	無			
192	2006/5/29	60192	東レ株式会社	インターフェロンベータ	乳糖	ウシ乳	オランダ、ドイツ、ベルギー及びルクセンブルク	添加物	無	無	無			
193	2006/5/29	60193	東レ株式会社	インターフェロンベータ	ウシ血清	ウシ血液	オーストラリア及びニュージーランド	製造工程	無	無	無			
194	2006/5/29	60194	東レ株式会社	インターフェロンベータ	トリプシン	ブタ膵臓抽出物	アメリカ合衆国及びカナダ	製造工程	無	無	無			
195	2006/5/29	60195	ワイス株式会社	エタネルセプト(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣	不明	製造工程	無	無	無			
196	2006/5/30	60196	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマ-n1	インターフェロン ガンマ-n1	ヒトミエロモノサイト細胞株	アメリカ	有効成分	無	無	有			
197	2006/5/30	60197	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマ-n1	人血清アルブミン	ヒト血液	アメリカ	添加物	無	無	有			
198	2006/5/30	60198	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマ-n1	ウシ胎仔血清	ウシ血液	アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	有			
199	2006/5/30	60199	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマ-n1	抗ハムスター胸腺細胞ウサギ抗血清	ウサギ血液	アメリカ	製造工程	無	無	有			
200	2006/5/30	60200	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマ-n1	抗IFN-γモノクローナル抗体	マウスハイブリドーマ	イギリス	製造工程	無	無	有			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置有	感染症(PT)	出典	概要
201	2006/5/30	60201	大塚製薬株式会社	インターフェロン ガンマ-n1	ハムスター (ヒトミエロモノサイト細胞を皮下で増殖)	ハムスター	日本	製造工程	無	無	有			
202	2006/5/30	60202	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ膵臓抽出物	アメリカ及びカナダ	製造工程	無	無	無			
203	2006/5/30	60203	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
204	2006/5/30	60204	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	ドイツ	製造工程	無	無	無			
205	2006/5/30	60205	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	ヒト血清アルブミン	ヒト血液	スイス	製造工程	無	無	無			
206	2006/5/30	60206	ノバルティスファーマ	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	バシリキシマブ(遺伝子組換え)	マウスモノクローナル抗体		有効成分	無	無	無			
207	2006/06/01	60207	エーザイ	モンテプラーゼ(遺伝子組換え)	遺伝子組換え細胞	ベビーハムスターの腎臓	10数年前に構築したマスターセルバンクに使用した細胞株のため原産国不明	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	N Engl J Med 2005; 353: 1374-1385	2005年5月10日から12日にハノイで開かれたヒトインフルエンザA/H5N1に対する症例管理と研究に関するWHO会議で一部発表されたものを含む、ヒトにおけるトリインフルエンザの特徴、予防、管理をまとめた総説である。発生率、伝播、臨床的特徴、病原論、症例検出および管理、予防の項目別に述べている。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月24日	1996年から2006年2月21日までの世界各国におけるH5N1トリインフルエンザ発生状況について、ヒトおよび動物別にまとめた。
												鳥インフルエンザ	OIE Press Release 2006年3月1日	ドイツのリューゲン島でH5N1ウイルスに感染したネコが発見された。同島の野生の白鳥から単離された株との類似性を調べるため、さらに調査中である。ネコのH5N1ウイルス感染は今までも報告があり、疫学的なウイルス変化や病原性を増す突然変異を起こさない。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月9日	ドイツ当局はテンにおけるH5N1感染を確定した。ネコに次ぐ、2番目の哺乳類感染種である。このテンは感染ネコと同地域(リュウゲン島)で発見された。同島では2月16日以降、野生の白鳥、アヒルなど125例でH5N1感染が確定されている。
208	2006/06/01	60208	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	トリプシン	ブタ膵臓	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	N Engl J Med 2005; 353: 1374-1385	2005年5月10日から12日にハノイで開かれたヒトインフルエンザA/H5に対する症例管理と研究に関するWHO会議で一部発表されたものを含む、ヒトにおけるトリインフルエンザの特徴、予防、管理をまとめた総説である。発生率、伝播、臨床的特徴、病原論、症例検出および管理、予防の項目別に述べている。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月24日	1996年から2006年2月21日までの世界各国におけるH5N1トリインフルエンザ発生状況について、ヒトおよび動物別にまとめた。
												鳥インフルエンザ	OIE Press Release 2006年3月1日	ドイツのリュウゲン島でH5N1ウイルスに感染したネコが発見された。同島の野生の白鳥から単離された株との類似性を調べるため、さらに調査中である。ネコのH5N1ウイルス感染は今までも報告があり、疫学的なウイルス変化や病原性を増す突然変異を起こさない。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月9日	ドイツ当局はテンにおけるH5N1感染を確定した。ネコに次ぐ、2番目の哺乳類感染種である。このテンは感染ネコと同地域(リュウゲン島)で発見された。同島では2月16日以降、野生の白鳥、アヒルなど125例でH5N1感染が確定されている。
209	2006/06/01	60209	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	プラスミン	ウシ血清	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	N Engl J Med 2005; 353: 1374-1385	2005年5月10日から12日にハノイで開かれたヒトインフルエンザA/H5に対する症例管理と研究に関するWHO会議で一部発表されたものを含む、ヒトにおけるトリインフルエンザの特徴、予防、管理をまとめた総説である。発生率、伝播、臨床的特徴、病原論、症例検出および管理、予防の項目別に述べている。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月24日	1996年から2006年2月21日までの世界各国におけるH5N1トリインフルエンザ発生状況について、ヒトおよび動物別にまとめた。
												鳥インフルエンザ	OIE Press Release 2006年3月1日	ドイツのリュウゲン島でH5N1ウイルスに感染したネコが発見された。同島の野生の白鳥から単離された株との類似性を調べるため、さらに調査中である。ネコのH5N1ウイルス感染は今までも報告があり、疫学的なウイルス変化や病原性を増す突然変異を起こさない。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月9日	ドイツ当局はデンにおけるH5N1感染を確定した。ネコに次ぐ、2番目の哺乳類感染種である。このデンは感染ネコと同地域(リューゲン島)で見られた。同島では2月16日以降、野生の白鳥、アヒルなど125例でH5N1感染が確定されている。
210	2006/06/01	60210	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	抗不純蛋白質抗体	ウサギ血清	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	N Engl J Med 2005; 353: 1374-1385	2005年5月10日から12日にハノイで開かれたヒトインフルエンザA/H5N1に対する症例管理と研究に関するWHO会議で一部発表されたものを含む、ヒトにおけるトリインフルエンザの特徴、予防、管理をまとめた総説である。発生率、伝播、臨床的特徴、病原論、症例検出および管理、予防の項目別に述べている。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月24日	1996年から2006年2月21日までの世界各国におけるH5N1トリインフルエンザ発生状況について、ヒトおよび動物別にまとめた。
												鳥インフルエンザ	OIE Press Release 2006年3月1日	ドイツのリューゲン島でH5N1ウイルスに感染したネコが発見された。同島の野生の白鳥から単離された株との類似性を調べるため、さらに調査中である。ネコのH5N1ウイルス感染は今までも報告があり、疫学的なウイルス変化や病原性を増す突然変異を起こさない。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月9日	ドイツ当局はデンにおけるH5N1感染を確定した。ネコに次ぐ、2番目の哺乳類感染種である。このデンは感染ネコと同地域(リューゲン島)で見られた。同島では2月16日以降、野生の白鳥、アヒルなど125例でH5N1感染が確定されている。
211	2006/06/01	60211	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	抗モンテブラーゼモノクローナル抗体	マウス腹水	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	N Engl J Med 2005; 353: 1374-1385	2005年5月10日から12日にハノイで開かれたヒトインフルエンザA/H5N1に対する症例管理と研究に関するWHO会議で一部発表されたものを含む、ヒトにおけるトリインフルエンザの特徴、予防、管理をまとめた総説である。発生率、伝播、臨床的特徴、病原論、症例検出および管理、予防の項目別に述べている。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月24日	1996年から2006年2月21日までの世界各国におけるH5N1トリインフルエンザ発生状況について、ヒトおよび動物別にまとめた。
												鳥インフルエンザ	OIE Press Release 2006年3月1日	ドイツのリューゲン島でH5N1ウイルスに感染したネコが発見された。同島の野生の白鳥から単離された株との類似性を調べるため、さらに調査中である。ネコのH5N1ウイルス感染は今までも報告があり、疫学的なウイルス変化や病原性を増す突然変異を起こさない。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月9日	ドイツ当局はデンにおけるH5N1感染を確定した。ネコに次ぐ、2番目の哺乳類感染種である。このデンは感染ネコと同地域(リュウゲン島)で発見された。同島では2月16日以降、野生の白鳥、アヒルなど125例でH5N1感染が確定されている。
212	2006/06/01	60212	エーザイ	モンテブラーゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血清	米国、オーストラリア、ニュージーランド、コスタリカ、ニカラグア、エルサルバドル、パナマ又はウルグアイ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	N Engl J Med 2005; 353: 1374-1385	2005年5月10日から12日にハノイで開かれたヒトインフルエンザA/H5に対する症例管理と研究に関するWHO会議で一部発表されたものを含む、ヒトにおけるトリインフルエンザの特徴、予防、管理をまとめた総説である。発生率、伝播、臨床的特徴、病原論、症例検出および管理、予防の項目別に述べている。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年2月24日	1996年から2006年2月21日までの世界各国におけるH5N1トリインフルエンザ発生状況について、ヒトおよび動物別にまとめた。
												鳥インフルエンザ	OIE Press Release 2006年3月1日	ドイツのリュウゲン島でH5N1ウイルスに感染したネコが発見された。同島の野生の白鳥から単離された株との類似性を調べるため、さらに調査中である。ネコのH5N1ウイルス感染は今までも報告があり、疫学的なウイルス変化や病原性を増す突然変異を起こさない。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年3月9日	ドイツ当局はデンにおけるH5N1感染を確定した。ネコに次ぐ、2番目の哺乳類感染種である。このデンは感染ネコと同地域(リュウゲン島)で発見された。同島では2月16日以降、野生の白鳥、アヒルなど125例でH5N1感染が確定されている。
213	2006/06/02	60213	日本赤十字社	解凍人赤血球濃厚液	解凍人赤血球濃厚液	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	J Med Virol 2006; 78: 311-317	ドイツで初めてB/Gサブタイプ間組換え型ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)が同定された。このウイルスは、NucliSense HIV-1 QT assay (Organon Tecknika/bioMerieux)では検出不能であり、Monitor v1.5 test (Roche Molecular Systems)ではLCx HIV RNA Quantitative assay (Abbott Laboratories)に比べ有意に低値を示した。プライマーとプローブ結合部位でのヌクレオチドの不整合が、定量差の原因である。HIV-1の遺伝的多様性がアッセイにおける検出と定量に影響を与えることに注意すべきである。

No.	採種日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												レンサ球菌感染	Clin Microbiol Infect 2005; 11: 919-924	スペインの2つの大病院で行われた成人における肺炎連鎖球菌菌血症回顧試験で、1020件中108件(10.6%)が病院内肺炎球菌血流感染(NPBI)と同定された。この内77例のデータが分析可能であったが、入院後、血液培養が陽性になるまでは3~135日(中央値17日)で、基礎疾患は悪性腫瘍(31%)、慢性閉塞性肺疾患(28.6%)、心不全(16.9%)、慢性腎不全(15.6%)、肝硬変(13%)、HIV感染(13%)であった。患者の31.2%が重度の敗血症、11.7%が敗血症ショック、3.9%が多臓器不全を呈した。原因菌の血清型のうち、78%は23価多糖体ワクチンに含まれていた。35名(45.5%)の患者が死亡し、そのうち21名(27.3%)がNPBIに関連すると考えられた。
												細菌感染	Transfusion 2005; 45: 1845-1852	2004年3月にアメリカ赤十字の36の地域血液センターすべてにおいて、成分採血由来の血小板製剤における細菌感染についてルーチンの品質管理試験を行った。細菌試験の最初の10ヶ月で350,658例中226例が初期陽性であった。初期陽性のものにつき再度検体採取したところ、68例で細菌汚染が確認され、陽性率は0.019%であった。単離された細菌はブドウ球菌属(47.1%)、連鎖球菌属(26.5%)、グラム陰性菌(17.6%)であった。スクリーニングで陰性であった成分に対して、敗血症性輸血反応と疑わしい症例が3例特定され、これらはすべてコアグラウゼ陰性ブドウ球菌が原因とされた。
												細菌感染	Transfusion 2006; 46: 476-485	オランダで2002年11月に全国統一の皮膚消毒法(70%イソプロピルアルコールを用いたダブルスワブ消毒)が導入された。2002年から2003年に、プールされた軟層由来の濃縮血小板113,093例をスクリーニングしたところ、新消毒法導入後の初回陽性は0.85%で、導入前の0.95%と比べ、わずかな減少があった。初流血除去バッグを使用していた施設では細菌汚染の頻度は有意に低く、新消毒法導入前は0.5%、導入後は0.37%であった。アフエレーシス濃縮血小板は8000例中24例(0.3%)が初回陽性であった。
												細菌感染	Transfusion 2006; 46: 305-309	血小板供血症の長い、無症候性の58歳男性由来の血小板が単球症/ステリア陽性であった。パルスフィールドゲル電気泳動パターンはCDCデータベース中の他の2例の単球症/ステリア分離株と一致したが、疫学的な関連性は見られなかった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												感染	Eurosurveillance 2005; 10(11): 051110	1999年以来、スウェーデンでは梅毒症例数が増加している。男性と性交渉する男性の間で激増しているため、2004年は前年比7%増の192例で、1980年代半ば以来最高となった。感染の60%は男性間性交渉、38%は男女間性交渉によるもので、約半数(97例)がストックホルム郡で報告されている。ストックホルム郡外の症例のうち2例は海外で血液製剤により感染した。
												マラリア	ProMed20051015-0070	フランス人旅行者1名が2005年8月～9月ドミニカ共和国東部を旅行した後に熱帯性マラリアを発症した。マラリア薬の服用歴なし。過去12ヶ月以内に輸血、臓器移植歴もなし。
												インフルエンザ	AABB Weekly Report 2006; 12(2): 1-3	2006年1月5～6日に米国保健省血液安全安定供給諮問委員会で、インフルエンザの大流行とその血液供給に及ぼす影響について議論された。特に短期生存型血小板の供給が脅かされることが強調された。また血液供給者の潜在的ウイルス感染問題も含めて、安全な血液供給に関する研究がさらに必要であるとされ、保健省が取り組むべき対応策を可決した。
												鳥インフルエンザ	Nature 2005; 437: 1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO http://www.who.int/csr/don/2006_02_21b/en/index.html	トリインフルエンザの流行がアジア、アフリカ、ヨーロッパの国々に広がっている。2006年2月以降に初めてトリのH5N1感染を報告した国は、イラク、ナイジェリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、ギリシャ、イタリア、スロベニア、イラン、オーストリア、ドイツ、エジプト、インド、フランスの13カ国にのぼる。
												バルボウイルス	Clin Infect Dis 2005; 41: 1201-1203	バルボウイルスに急性感染後のウイルス動態の再評価により、症状が早期に消失したにもかかわらず、本ウイルスは宿主から急速には除去されないことが示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2006; 80: 322-331	酸性ドデシル硫酸ナトリウム(SDS)によるプリオンの不活性化について検討した。ハムスターSc237プリオンおよびヒト散在性クロイツフェルト・ヤコブ病(sCJD)プリオンの酸性SDS暴露による不活性化には、SDS濃度、暴露期間、温度が関係した。ヒトsCJDプリオンはハムスターSc237プリオンに比べ、不活性化に10万倍以上抵抗性を示した。ステンレス鋼線に付着したヒトsCJDプリオンは酸性SDSとオートクレーブの併用で除去された。この知見は手術器具や歯科用機器などのプリオン不活性化に適したシステムの基礎となる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol 2005; 79: 13794-13796	慢性消耗病(CWD)感染ミュールジカの脳組織を、リスザルの脳内に接種したところ、リスザルは進行性神経変性疾患を発現した。リスザルの脳組織にはPrPresが検出され、海綿状変性が認められた。霊長類にCWDが感染した初めての報告である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Med 2005; 11: 1137-1138	イタリアのサッサリ地方で飼育されている818頭のヒツジについて調べたところ、そのうち261頭がプリオン病に対する感受性を与えるPrnp対立形質を有していた。7頭が明らかなスクレイピーであったが、脳、リンパ節、扁桃腺でPrPScが検出された。スクレイピーのヒツジ全てと無作為に選んだ健康なヒツジ100頭について乳腺を組織学的に調べたところ、乳腺炎とスクレイピーを併発していた4頭では乳腺においてPrPScが検出された。30 km離れた別の群れのヒツジ272頭についても同様の調査を行ったところ、1頭が同様の所見を呈した。慢性的な炎症とスクレイピーの併発により、PrPScの沈着が予期せぬ組織に広がることが示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED20060112-0070	英国保健省の月間統計によると2006年1月6日時点でCJD死亡患者総数(BSEと関連があると思われるvCJDを含む)は153例で、内訳はvCJD確定例における死亡患者109例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)43例、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的確定実施中)1例であった。存命中のvCJD患者は6例で、vCJD確定例および可能性例総数は159例で前月から変化はなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement http://www.hpa.org.uk/hpa/news/articles/press_releases/2006/060209_cjd.htm	輸血と関連したvCJDの新たな症例が見つかった。患者は、供血後20ヶ月でvCJDを発症したドナー由来血液の輸血を受け、その約8年後にvCJDを発症した。この患者は存命中で、国立プリオン病院の医師による治療を受けている。この症例は輸血関連vCJD伝播としては3例目であり、vCJDが輸血によってヒト-ヒト感染しうることを示す新たな証拠となるだろう。これら3例は、血漿分画製剤の投与ではなく、すべて血液成分の輸血と関連している。この患者は、英国で供血後にvCJDを発症したドナーから輸血されたことが判明し生存しているおよそ30人の一人だった。対象者は全員vCJD暴露の可能性のあることを通知され、手術などの医療措置を介したvCJD伝播の危険を減らすための予防措置を講じるよう求められている。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 311: 1117	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrPscが検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	2004年2月に50歳の日本人男性がCJDサーベイランス委員会に報告された。男性は英国およびフランスに滞在歴があった。2001年6月に発病し、2003年1月には脳脊髄液は14-3-3蛋白質陽性であった。PrP遺伝子解析では変異は見られなかった。2003年12月にはMRIと脳波より、sCJD可能性例と診断された。2004年12月に死亡し、剖検によりvCJDと診断された。日本初のvCJD確定例である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Sunday Herald 2006年3月5日 http://www.sundayherald.com/54442	vCJD専門家が、ヒツジとヤギにおける非定型スクレイビーの危険性を警告している。ヒトに感染するおそれがあるため、現在18月齢以上のヒツジに行われているTSE検査を、もっと若いヒツジに対しても行うように求めている。
												ウイルス感染	J Clin Microbiol 2005; 43: 5428-5434	米国で1987年から1996年の間にHIV感染小児患者57例から採取し、凍結保存した末梢血単核細胞(PBMC)と2002年から2003年に健常者19例から採取した新鮮PBMCにおいてヒトパピローマウイルス(HPV) DNAを調べた。患者8例と健常者3例がHPV型16ゲノムの2つのサブグループの大部分に陽性であり、これら11のPBMC検体すべてで検出されたHPVゲノムはエピソード型として存在した。PBMCはHPVのキャリアであり、血液を介してHPVを広めるおそれがあることが示唆された。
												ウイルス感染	ProMED20060205-0040	インド洋西部でチクングンヤウイルスによる感染症が流行している。レユニオン島では2006年1月下旬の1週間だけで1万5千人増え、計5万人に達した。モーリシャス当局はウイルスを媒介するヒトスジマカの駆除を決定した。
												ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1874-1881	米国において、ブタのノロウイルスについて調べるため、正常なブタの糞便275検体をRT-PCR法によりスクリーニングした。6例が陽性で、遺伝子配列分析の結果、ゲノグループIIの型と潜在的組み換え型が同定された。1つの遺伝子型は遺伝子的、抗原的にヒトノロウイルスと関連性があった。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												コロナウイルス感染	Science 2005; 310: 676-679	2004年3月から12月に、中国の4地区から408匹のコウモリを集め、血液、糞、唾液を採取し、血清検体および糞または唾液由来cDNAを、各々独立に、異なった方法で、二重盲検により分析した。その結果、ある種のコウモリが重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体であるSARSコロナウイルス(SARS-CoV)に非常に近いコロナウイルスの自然宿主であることが明らかになった。これらのウイルスはSARS様コロナウイルス(SL-CoV)と名づけられ、ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVより遺伝的多様性が高い。ヒトやジャコウネコから分離されたSARS-CoVは系統発生的にSL-CoVの範疇に入り、SARS発生の原因ウイルスがSL-CoV群の一員であったことを示す。
												コロナウイルス感染	Clin Infect Dis 2006; 42: 634-639	新規ヒトコロナウイルスHKU1は呼吸器及び腸疾患に関連する可能性があり、状態の不良な患者における持続性の無症候性感染との関連が考えられる。
												エボラ出血	Nature 2005; 438: 575-576	ガボンおよびコンゴで2001年から2003年にかけて発生したヒトと大型霊長類におけるエボラ流行時に採集された1030の小型脊椎動物において、エボラウイルスについて調べた。エボラウイルスに特異的な抗体が3種類のコウモリの血清中で検出された。エボラウイルスのヌクレオチド配列が同じ種類のコウモリの肝臓と脾臓で検出されたが、腎臓、心臓、肺からは検出されなかった。また他の動物からは検出されなかった。驚くべきことに、抗体陽性の動物はすべてPCR陰性であり、PCR陽性の動物はすべて抗体陰性であった。これはPCR陽性の動物は感染から日が浅く、免疫反応が検出できる前に検査されたためと思われる。
												デング熱	ProMed20050928-0040	2005年9月、ベネズエラ、シンガポール、カリブ海マルティニーク島、マレーシアでデング熱が流行している。死亡者も多数でている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	Blood 2005; 106: Abstract #5331	骨髄移植後の最初の再発時に敗血症と不可逆性ショックを発症し、死後解剖でデングウイルス4型感染が判明した急性リンパ性白血病(ALL)小児患者について報告する。1994年11月にプエルトリコで兄弟からの骨髄移植を受けた6歳の少女は移植後5日目に全身紅斑、6日目に発熱を発症し、抗生物質の投与にかかわらず、不可逆的ショックを起こし、11日目に死亡した。死後解剖で血液、腹水、肝臓、脾臓からデングウイルス4型が検出され、PCRで確認された。ドナーの血液をさらに検査したところ、デングウイルス4型のIgM抗体が検出され、患者ウイルスの培養は、ドナーの急性力価と一致した。デングウイルス感染は流行地域で輸血や骨髄移植を受けた患者の死亡原因となりうる。
												ウエストナイルウイルス	朝日新聞 2005年10月3日	厚生労働省は2005年10月3日、米国から日本帰国した男性会社員が米国で流行中のウエストナイル熱と診断されたと発表した。国内初の感染例である。
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2005; 54(Dispatch): 1-3	2005年9月、米国で共通のドナーから臓器移植を受けたレシピエント4名中3名にWNV感染が確認された。ドナーから採取された血清および血漿サンプルの検査でWNV-IgM抗体、IgG抗体は陽性を示したが、WNV-RNAは陰性であった。
												ウエストナイルウイルス	CDC http://www.cdc.gov/ncidod/dvbid/westnile/qa/transfusion.htm	2005年8月-9月にニューヨークとペンシルバニアで臓器移植を受けたレシピエントがウエストナイルウイルス感染した件に関連するQ&A。臓器移植による感染は、ドナーの血液が核酸増幅試験陰性、IgM、IgG抗体陽性の場合にも起こる可能性がある。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 473-475	2005年に、英国国内で感染したE型肝炎の症例が、バーミンガム市内の病院で8例発見された。E型肝炎は英国ではまれな疾患と考えられており、通常は流行地への渡航後に発症する。急性肝炎の患者すべてに、渡航歴とは無関係にHEVの可能性を考慮する必要がある。
												E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	日本固有のE型肝炎ウイルスの分子学的追跡を行った。日本で回収された遺伝子型3HEV24株および遺伝子型4HEV24株は、821nt RNAポリメラーゼ遺伝子フラグメントから成る系統樹で、外国株とは明らかに異なるクラスターを示した。ヌクレオチド置換速度から、日本固有HEVの先祖は、英国から日本へヨークシャ種のブタが輸入された1900年頃進入したと考えられた。遺伝子型3の進化は1920年代から緩やかに始まり、遺伝子型4は1980年代から急速に広まった。日本におけるHEVの土着化と蔓延は豚肉摂食の大衆化と関連することが示唆された。
214	2006/06/05	60214	化学及血清療法研究所	乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	ペプシン	ブタ胃粘膜	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
215	2006/06/14	60215	化学及血清療法研究所	抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs人免疫グロブリン	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	無	バルボウイルス	Emerg Infect Dis 2006; 12: 151-154	米国で医薬品製造用血漿プールの検体においてPCR法によりバルボウイルス(PARV4)遺伝子の検出を行った。これらの血漿はヨーロッパと北アメリカで集められたものである。その結果、137プール中7例がPARV4およびPARV5に陽性であった。
												肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1089-1097	非特異的PCRを行った後、染色体由来配列を除去することにより、非A-E肝炎患者の血清から、外来DNA断片が得られた。これらの内の一つをNV-Fと名づけたが、部分的オープンリーディングフレームを含み、非A-E肝炎患者69例中17例(24.6%)に検出された。NV-F陽性患者65例中49例(75.4%)の血清中に抗NV-F抗体が検出された。また免疫蛍光分析により、抗原は患者の肝細胞に存在することが明らかとなった。NV-Fはヒト肝炎に関連する新規の1本鎖DNA断片である。
216	2006/06/15	60216	ワイス	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	米国	製造工程	無	無	無			
217	2006/06/15	60217	ワイス	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	ヒトγグロブリン	ヒト血液	フィンランド、スウェーデン	製造工程	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
218	2006/06/15	60218	ワイス	ゲムツスマブオゾガマイシン (遺伝子組換え)	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	CDC 2005年11月 18日	米国疾病予防センター(CDC)は、2001年から2005年にテキサスに住んでいた30歳男性がvCJDと診断されたとの通知を、英国CJDサーベイランスよりを受けた。患者は英国に帰国後に疾患が進行し、現在治療中である。患者は英国でvCJDになったと考えられ、米国での入院歴、手術歴、献血歴などはなかった。米国におけるvCJD2例目の症例である。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年3月3日	カナダ食品監視局は2006年1月12日に安楽死させ、1月22日にBSEと確定診断されたカナダのアルベルタのBSE牛についてOIEガイドラインに基づき疫学的調査を行った。カナダで4頭目のBSE例である。感染ウシは69月齢で、発症前2年間に2頭を出産していたが、1頭は既に死亡しており、もう1頭は処分された。同じ農場で生まれた156頭についても追跡調査され、生存していたウシは処分された。処分されたウシは全てBSE陰性であった。詳しい飼料調査が行われたが、BSE感染ウシは生後1年の間に低レベルの感染力を有する飼料に暴露したと考えられた。
												BSE	USDA/News Release 2006年3 月15日、3月16日 USDA/Statement 2006年5月2日	米国農務省は2006年3月15日アラバマの牝牛がBSEと確定されたと発表した。米国で2頭目のBSE牛である。ウシは赤毛交雑種で、歯の検査から10歳以上とされ、FDAの1997年フィードバン以前に生まれた。疫学的調査の結果、2頭の子牛を発見したが、1頭は既に死亡していた。もう1頭はBSE陽性であり、観察のため研究所に収容されている。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年4月16日 2006年5月8日	2006年4月16日、ブリティッシュコロンビアのウシにBSEが確定診断された。カナダで5頭目のBSE牛である。感染牛の生年月日と出生農場はすでに確定されており、感染源を調査中である。感染牛は6歳の乳牛で、カナダのフィードバン実施後にBSEに罹患した。CFIAは感染牛と同じ餌に暴露した可能性のあるウシを追跡調査し、検査を続けている。
219	2006/06/15	60219	ワイス	ゲムツスマブオゾガマイシン (遺伝子組換え)	ペプトン	ウシ乳	オーストラ リア、 ニュー ジーランド	製造工程	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	CDC 2005年11月 18日	米国疾病予防センター(CDC)は、2001年から2005年にテキサスに住んでいた30歳男性がvCJDと診断されたとの通知を、英国CJDサーベイランスよりを受けた。患者は英国に帰国後に疾患が進行し、現在治療中である。患者は英国でvCJDになったと考えられ、米国での入院歴、手術歴、献血歴などはなかった。米国におけるvCJD2例目の症例である。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年3月3日	カナダ食品監視局は2006年1月12日に安楽死させ、1月22日にBSEと確定診断されたカナダのアルベルタのBSE牛についてOIEガイドラインに基づき疫学的調査を行った。カナダで4頭目のBSE例である。感染ウシは69月齢で、発症前2年間に2頭を出産していたが、1頭は既に死亡しており、もう1頭は処分された。同じ農場で生まれた156頭についても追跡調査され、生存していたウシは処分された。処分されたウシは全てBSE陰性であった。詳しい飼料調査が行われたが、BSE感染ウシは生後1年の間に低レベルの感染力を有する飼料に暴露したと考えられた。
												BSE	USDA/News Release 2006年3月15日、3月16日 USDA/Statement 2006年5月2日	米国農務省は2006年3月15日アラバマの牝牛がBSEと確定されたと発表した。米国で2頭目のBSE牛である。ウシは赤毛交雑種で、歯の検査から10歳以上とされ、FDAの1997年フィードバン以前に生まれた。疫学的調査の結果、2頭の子牛を発見したが、1頭は既に死亡していた。もう1頭はBSE陽性であり、観察のため研究所に収容されている。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年4月16日 2006年5月8日	2006年4月16日、ブリティッシュコロンビアのウシにBSEが確定診断された。カナダで5頭目のBSE牛である。感染牛の生年月日と出生農場はすでに確定されており、感染源を調査中である。感染牛は6歳の乳牛で、カナダのフィードバン実施後にBSEに罹患した。CFIAは感染牛と同じ餌に暴露した可能性のあるウシを追跡調査し、検査を続けている。
220	2006/06/15	60220	ワイス	ゲムツズマブオゾガマイシン (遺伝子組換え)	加水分解カゼイン	ウシ乳	オーストラリア、 ニュー ジーランド	製造工程	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	CDC 2005年11月 18日	米国疾病予防センター(CDC)は、2001年から2005年にテキサスに住んでいた30歳男性がvCJDと診断されたとの通知を、英国CJDサーベイランスよりを受けた。患者は英国に帰国後に疾患が進行し、現在治療中である。患者は英国でvCJDになったと考えられ、米国での入院歴、手術歴、献血歴などはなかった。米国におけるvCJD2例目の症例である。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年3月3日	カナダ食品監視局は2006年1月12日に安楽死させ、1月22日にBSEと確定診断されたカナダのアルベルタのBSE牛についてOIEガイドラインに基づき疫学的調査を行った。カナダで4頭目のBSE例である。感染ウシは69月齢で、発症前2年間に2頭を出産していたが、1頭は既に死亡しており、もう1頭は処分された。同じ農場で生まれた156頭についても追跡調査され、生存していたウシは処分された。処分されたウシは全てBSE陰性であった。詳しい飼料調査が行われたが、BSE感染ウシは生後1年の間に低レベルの感染力を有する飼料に暴露したと考えられた。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	USDA/News Release 2006年3月15日、3月16日 USDA/Statement 2006年5月2日	米国農務省は2006年3月15日アラバマの牝牛がBSEと確定されたと発表した。米国で2頭目のBSE牛である。ウシは赤毛交雑種で、齒の検査から10歳以上とされ、FDAの1997年フィードバン以前に生まれた。疫学的調査の結果、2頭の子牛を発見したが、1頭は既に死亡していた。もう1頭はBSE陽性であり、観察のため研究所に収容されている。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年4月16日 2006年5月8日	2006年4月16日、ブリティッシュコロンビアのウシにBSEが確定診断された。カナダで5頭目のBSE牛である。感染牛の生年月日と出生農場はすでに確定されており、感染源を調査中である。感染牛は6歳の乳牛で、カナダのフィードバン実施後にBSEに罹患した。CFIAは感染牛と同じ餌に暴露した可能性のあるウシを追跡調査し、検査を続けている。
221	2006/06/15	60221	ワイス	ゲムツスマブオゾガマイシン (遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	ニュージーランド、米国	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC 2005年11月18日	米国疾病予防センター(CDC)は、2001年から2005年にテキサスに住んでいた30歳男性がvCJDと診断されたとの通知を、英国CJDサーベイランスよりを受けた。患者は英国に帰国後に疾患が進行し、現在治療中である。患者は英国でvCJDになったと考えられ、米国での入院歴、手術歴、献血歴などはなかった。米国におけるvCJD2例目の症例である。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年3月3日	カナダ食品監視局は2006年1月12日に安楽死させ、1月22日にBSEと確定診断されたカナダのアルベルタのBSE牛についてOIEガイドラインに基づき疫学的調査を行った。カナダで4頭目のBSE例である。感染ウシは69月齢で、発症前2年間に2頭を出産していたが、1頭は既に死亡しており、もう1頭は処分された。同じ農場で生まれた156頭についても追跡調査され、生存していたウシは処分された。処分されたウシは全てBSE陰性であった。詳しい飼料調査が行われたが、BSE感染ウシは生後1年の間に低レベルの感染力を有する飼料に暴露したと考えられた。
												BSE	USDA/News Release 2006年3月15日、3月16日 USDA/Statement 2006年5月2日	米国農務省は2006年3月15日アラバマの牝牛がBSEと確定されたと発表した。米国で2頭目のBSE牛である。ウシは赤毛交雑種で、齒の検査から10歳以上とされ、FDAの1997年フィードバン以前に生まれた。疫学的調査の結果、2頭の子牛を発見したが、1頭は既に死亡していた。もう1頭はBSE陽性であり、観察のため研究所に収容されている。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年4月16日 2006年5月8日	2006年4月16日、ブリティッシュコロンビアのウシにBSEが確定診断された。カナダで5頭目のBSE牛である。感染牛の生年月日と出生農場はすでに確定されており、感染源を調査中である。感染牛は6歳の乳牛で、カナダのフィードバン実施後にBSEに罹患した。CFIAは感染牛と同じ餌に暴露した可能性のあるウシを追跡調査し、検査を続けている。

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
222	2006/06/15	60222	ワイス	ゲムツズマブオゾガマイシン (遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	米国	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC 2005年11月18日	米国疾病予防センター(CDC)は、2001年から2005年にテキサスに住んでいた30歳男性がvCJDと診断されたとの通知を、英国CJDサーベイランスよりを受けた。患者は英国に帰国後に疾患が進行し、現在治療中である。患者は英国でvCJDになったと考えられ、米国での入院歴、手術歴、献血歴などはなかった。米国におけるvCJD2例目の症例である。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年3月3日	カナダ食品監視局は2006年1月12日に安楽死させ、1月22日にBSEと確定診断されたカナダのアルベルタのBSE牛についてOIEガイドラインに基づき疫学的調査を行った。カナダで4頭目のBSE例である。感染ウシは69月齢で、発症前2年間に2頭を出産していたが、1頭は既に死亡しており、もう1頭は処分された。同じ農場で生まれた156頭についても追跡調査され、生存していたウシは処分された。処分されたウシは全てBSE陰性であった。詳しい飼料調査が行われたが、BSE感染ウシは生後1年の間に低レベルの感染力を有する飼料に暴露したと考えられた。
												BSE	USDA/News Release 2006年3月15日、3月16日 USDA/Statement 2006年5月2日	米国農務省は2006年3月15日アラバマの牝牛がBSEと確定されたと発表した。米国で2頭目のBSE牛である。ウシは赤毛交雑種で、歯の検査から10歳以上とされ、FDAの1997年フィードバン以前に生まれた。疫学的調査の結果、2頭の子牛を発見したが、1頭は既に死亡していた。もう1頭はBSE陽性であり、観察のため研究所に収容されている。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年4月16日 2006年5月8日	2006年4月16日、ブリティッシュコロンビアのウシにBSEが確定診断された。カナダで5頭目のBSE牛である。感染牛の生年月日と出生農場はすでに確定されており、感染源を調査中である。感染牛は6歳の乳牛で、カナダのフィードバン実施後にBSEに罹患した。CFIAは感染牛と同じ餌に暴露した可能性のあるウシを追跡調査し、検査を続けている。
223	2006/06/15	60223	ワイス	ゲムツズマブオゾガマイシン (遺伝子組換え)	コレステロール	ヒツジ毛	オーストラリア、 ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
224	2006/06/15	60224	ワイス	ゲムツズマブオゾガマイシン (遺伝子組換え)	マウス骨髄腫由来NSO細胞	マウス骨髄腫	不明	製造工程	無	無	無			
225	2006/06/19	60225	鳥居薬品		アレルゲンエキス	Aspergillus fumigatus		有効成分	無	無	無			
226	2006/06/19	60226	鳥居薬品		アレルゲンエキス	Alternaria kikuchiana		有効成分	無	無	無			
227	2006/06/19	60227	鳥居薬品		アレルゲンエキス	Candida albicans		有効成分	無	無	無			
228	2006/06/19	60228	鳥居薬品		アレルゲンエキス	Cladosporium cladosporioides		有効成分	無	無	無			

No.	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
229	2006/06/19	60229	鳥居薬品		アレルギーエキス	Penicillium luteum		有効成分	無	無	無			
230	2006/06/20	60230	日本赤十字社	抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	J Med Virol 2006; 78: 311-317	ドイツで初めてB/Gサブタイプ間組換え型ヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)が同定された。このウイルスは、NucliSense HIV-1 QT assay (Organon Tecknika/bioMerieux)では検出不能であり、Monitor v1.5 test (Roche Molecular Systems)ではLCx HIV RNA Quantitative assay (Abbott Laboratories)に比べ有意に低値を示した。プライマーとプローブ結合部位でのヌクレオチドの不整合が、定量差の原因である。HIV-1の遺伝的多様性がアッセイにおける検出と定量に影響を与えることに注意すべきである。
												インフルエンザ	AABB Weekly Report 2006; 12(2): 1-3	2006年1月5～6日に米国保健省血液安全安定供給諮問委員会で、インフルエンザの大流行とその血液供給に及ぼす影響について議論された。特に短期生存型血小板の供給が脅かされることが強調された。また血液供給者の潜在的ウイルス感染問題も含めて、安全な血液供給に関する研究がさらに必要であるとされ、保健省が取り組むべき対応策を可決した。
												鳥インフルエンザ	Nature 2005; 437: 1108	2005年2月、ベトナムのトリインフルエンザ感染者においてオセルタミビルに耐性を示すH5N1型ウイルスが発見された。患者は予防量から開始し、のち高用量(治療量)投与され、回復した。高用量投与後はウイルスは分離されなかった。フェレットに感染させた実験で、オセルタミビル耐性ウイルスはザナミビルには感受性を示した。
												鳥インフルエンザ	WHO http://www.who.int/csr/don/2006_02_21b/en/index.html	トリインフルエンザの流行がアジア、アフリカ、ヨーロッパの国々に広がっている。2006年2月以降に初めてトリのH5N1感染を報告した国は、イラク、ナイジェリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、ギリシャ、イタリア、スロベニア、イラン、オーストリア、ドイツ、エジプト、インド、フランスの13カ国にのぼる。